

教育方針

学校教育目標『磨こう自分 仲間と共に 未来に向かって』

◆個別の知識・技能の向上

- 「わかる」「できる」喜びが感じられる授業をめざす
- ◆思考力・判断力・表現力等の向上
- ・個に応じた学習指導を行う
- ・対話のある授業づくりを行う
- ・ESDによって育む能力・態度の視点を取り入れる
- ・主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)をめざす
- ◆学びに向かう力・人間性等の育成
- ・学校が楽しいと感じられる学級・学習集団づくりをめざす
- ・地域の「ヒト・モノ・コト」とのつながりを重視した体験活動を行う
- ・持続可能なコミュニティをイメージできる児童づくりに努め、ふるさとを誇りに思う心情を育てる。
- ◆次期学習指導要領の実施に向けた教育内容の改善

教育活動の重点

- ◆個別の知識・技能の向上
- ・学習のめあて、振り返りなど学習スタンダードの定着。
- ・自主学習の奨励と、予習を生かす学習展開。
- ・少人数指導、個別指導を充実と、学習における合理的配慮に基づいた指導。(教室環境、ICT、板書、授業の流れ 等)
- ◆思考力・判断力・表現力等の向上
- ・ペアワークやグループワークを取り入れ協働的な学び。
- ・主体的に学習課題に取り組み、振り返りを通して次の問いを見つめるという深い学習のプロセスに沿った学習展開。
- ・「書く」ことを重視した「思考スキル」と「対話力」「表現力」の育成と、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」などの育成、総合的に考える力などESDで育む能力・態度との関係づけ。
- ◆学びに向かう力・人間性等の育成
- ・人権教育における育てたい力を明確にした学習展開。
- ・外部講師による校内研修や授業研究会(一人年1回以上)、研究会参加等による授業力の向上。
- ・縦割り班活動や異年齢集団での主体的活動による豊かな人間関係作り。
- ・タブレット等ICTを活用した、学習意欲や思考力・表現力の向上。
- ・教科・領域等で学習したことが地域社会とつながっていることに気づかせる学習展開。
- ・情報発信とともに、学校広報団、施設や関係機関等との連携を大切にし、地域の担い手としての自覚を育む体験的な活動の実施。
- ◆次期学習指導要領の実施に向けた教育内容の改善
- ・道徳科、英語科の導入や3観点による評価など、先行実施に向けた職員研修や校内体制の整備。

| 教育活動重点 | めざす児童像 | 重点目標 | 努力事項・具体的方策 | 到達目標 | 評価基準 | 評価(A:80%以上 B:79~60% C:59~40% D:39%以下) | | | | | | 総合評価 | 成果と課題 | 来年度に向けての改善策 | |
|----------------------------|--|----------------------------|---|--|--|---|--|---|--|-------------------------------------|---|--|---|---|---|
| | | | | | | 児童 | | 保護者 | | 教職員 | | | | | |
| | | | | | | アンケート項目 | 割合 評価 | アンケート項目 | 割合 評価 | アンケート項目 | 割合 評価 | | | | |
| 個別の知識・技能の向上 | 『磨こう自分』 自分の力を信じ、学習や運動、生活など、基礎・基本をしっかり身に付けている子ども ○自分で考え、表現する ○凡事徹底(あいさつ、返事、くつそえ) ○読書力、読書活動 ○健康、体力づくり | 学習ルールの定着 | 南小版「学習ルール」を活用し、保・小・中の連携を図りながら、学年に応じた学習規律の定着を図る。 | 低:「です・ます」 高:理由・根拠 高:友達につなげて | 学年に応じた話し方ができる(児・教80%以上) | (低)「です」や「ます」をつけて、発表することができた。 (中)自分の考えに理由をつけて、発表することができた。 (高)友達と考えと自分の考えをくみながら、発表することができた。 | 86 A | 86 A | 児童は、低:「です・ます」まで言い切る、中:理由を付ける、高:友達と考えと比べるなどしながら、発表している。(発表者名) | 100 A | 100 A | B | 児童の、学年に応じた話し方ができているという意識が低い。教職員の評価は高いので、一定の達成はできていると思われる。 | 学年に応じた話し方ができたときは称賛し、出来ていないときは指導するなど、メリハリをつけた指導を継続していきたい。音読発表で感想を発表する場面や日々の生活の中で出来ないときは言い直しをさせるなどしながら、粘り強く指導を継続していく。 | |
| | | | 自主学習の定着 | 「予習」を意識した自主学習の定着を図るとともに、「予習」を生かした学習展開に努める。 | 「予習」を意図した自主学習をすることができる。 | 「予習」を意図した自主学習をすることができる(児・保・教80%以上) | (中・高)予習や復習を意欲しきことができた。 | 76 B | 76 B | 児童は、予習や復習を意図して自主学習に取り組んでいる。(3年生以上) | 92 A | 92 A | C | 課題として、前期に比べ、「評価が下がり傾向にあること」教職員の評価と児童・保護者の評価に開きも見られることがある。教職員の指導が、保護者・児童に伝わっていない部分があるようである。児童・保護者の意識を高める必要がある。 | 教室だけでなく、集会など全児童が集まる場面でも、良い姿勢の児童を称賛するなどし、姿勢を保持する体幹が育っていない児童が多い。また、児童・教職員とも意識が低下している傾向がみられる。今一度指導を徹底してすすめていく必要がある。 |
| | | | | 基本的な生活習慣の定着 | 「もくもく掃除」の定着を図る。 | 掃除時間、黙って掃除ができる。 | 「もくもく掃除」ができている(児・教80%以上) | もくもくそうじをすることができた。 | 93 A | 93 A | 児童は、そうじ時間、だまって掃除をしている。 | 100 A | 100 A | B | 目標はほぼ達成できているようである。今後も、指導を継続していきたい。 |
| | | | 思考力・判断力・表現力等の向上 | 『仲間とともに』 友達と力を合わせ、学習したことを使って、主体的・対話的で深い学びをする子ども ○自分で考え、表現する ○信頼、感謝 ○学び合い | 思考スキルの定着 | 「考え方のお助け(ヒント)」(南小版思考スキル)を活用し、学年に応じた思考スキルの向上を図る。 | 低:分類、規則性 中:比較、関係づけ 高:多面的、条件制御 | 学年に応じた思考スキルを身に付けている(児・教80%以上) | 児童は、授業の中で、学年に応じた思考スキル(低:たどるならべるくらべる、中:比較・選択づけ・具体化・抽象化)を意識して学習に取り組んでいる。 | 64 B | 64 B | 児童は、授業の中で、学年に応じた思考スキル(低:たどるならべるくらべる、中:比較・選択づけ・具体化・抽象化)を意識して学習に取り組んでいる。 | 35 D | 35 D | C |
| 主体的な活動 | 自主的な仲間よし班活動を推進する。 | 話し合い活動を通して、自主的・計画的な活動ができる。 | | | | 自主的な活動を行っている(児・教80%以上) | 学級や学校がよくなるために自分の考え(や意見)を出した。 | 82 A | 82 A | 児童が学級や学校づくりに自主的に参加できるように話し合い活動を進める。 | 93 A | 93 A | B | 後期に、児童の評価値が下がり、児童と教職員の評価に開きがみられた。教職員の指導が児童の行動に結びついていない面があるようである。学級会や委員会活動等で、児童が自主的積極的に発言するような手立てを講じていく必要がある。 | めあてを設定して振り返りさせたり、見通しを持てる活動内容の提示や話し合いの進め方を指導したりして、児童が自信を持って自主的に活動しようとする意欲を育てる。学級内では、係活動の活性化や学活の連携を図り、児童の自主的実践的な態度を育てていく。高学年においては、学校のリーダーとしての意識をさらに高め、主体的実践力をつけていきたい。 |
| ICTを活用した魅力ある授業づくり | タブレット端末を用いて、学習意欲を掻き立てる授業づくりに努める。 | タブレット端末を用いて、自分の考えを表現できる。 | | | | タブレット端末を用いて自己表現活動を行った(児・保・教80%以上) | PCやタブレットを用いて魅力ある授業づくりが進んでいる。 | 75 B | 75 B | 児童は、タブレットを用いて魅力ある授業づくりが進んでいる。 | 78 B | 78 B | B | PCやタブレットを活用した魅力ある授業づくりに向けて、今後も積極的に取り組んだり、研修で学んだりしていきたい。 | ICT活用について、授業等に活用できる実践例を共有したり、研修会に参加したりしながら理解を深めていく。タブレットやパソコン教室を積極的に活用しながら魅力ある授業づくりに取り組む。 |
| 保小中高のつながりを意識した岩美町スクラム教育の推進 | 規則正しい生活習慣が身につくように繰り返し啓発に努める。 | 「早寝・早起き・朝ご飯」の生活習慣を身につける。 | | | | 早寝・早起きを、朝ご飯を食べる(児・保・教80%以上) | 早寝・早起きを、朝ご飯を食べる(児・保・教80%以上) | 早寝(9時30分(低9時)まで)にねる(児・教80%以上)が守ることができた。 | 74 B | 74 B | 児童は、早寝(低学年9:00、中学年9:30、高学年10:00)を守っている。 | 92 A | 92 A | C | 引き続き、早寝の定着を図るための指導を続けていく必要がある。南つきいきき週間の取り組みを活用して児童の意識を高めていきたい。 |
| 学びに向かう力・人間性等の育成 | 『未来に向かって』 学習したことを社会と結び付けたり、社会に生かそうとする子ども ○夢・志 ○高い目標 | ESD(ユネスコスクール)の推進 | ESDカレンダーを作成し、持続可能な社会の実現に向けて行動できる児童の育成に努める。 | 人権に焦点を当て、全教科・全領域を通して人権意識を醸成する。 | 人権尊重、生命尊重を意識した言動ができる。(児・保・教80%以上) | 自分も友達も家族も大切にすることができた。(人) | 97 A | 97 A | 児童は、自分や友達、家族のことを大切にしている。 | 94 A | 94 A | B | ESD(ユネスコスクール)の意義について教職員が理解を深めたり、児童が人権尊重・生命尊重・ものを大切にすることを大切にする等の意識が高まっている。 | ESD(ユネスコスクール)の意義や内容等に関連付けながら、人権教育の取り組みを進めていく。職員研修において、教職員間で共通理解を図る機会を取る。 | |
| | | | 地域社会とのつながりを意識した教育活動 | 地域社会の一員としての自覚を持つことができる。 | 地域社会の一員としての自覚をもち、ふるさと岩美町に誇りを持っている。(児・保・教80%以上) | 自分が住んでいる地いきは、好きだ。 | 96 A | 96 A | 児童は、自分が住んでいる地いきが好きである。 | 92 A | 92 A | A | 自分の住んでいる地域が好きな児童が多い。引き続き地域に出かけたり、地域の人との出会ったりしながら、地域への理解や愛着を深めていきたい。 | 保護者に協力を願いつつ連携を深め、自分がすすんでいる地域に誇りを持つ児童の育成をめざして、地域人材の活用や教材開発を行いながら進めていく。 | |
| | | | 次期学習指導要領の実施に向けた教育内容の改善 | 先行実施に向けて、職員研修等を計画的に実施する。 | 5・6年の「外国語科」・「道徳の特別科化」・「プログラミング教育」についての研修を持つ。 | 次期学習指導要領の実施に向けた教育内容の改善に努めた。(教80%以上) | 英語科や特別の教科道徳、情報活用能力等、次期学習指導要領の実施に向けた教育内容の理解や改善が進んでいる。 | 80 B | 80 B | 児童は、自分が住んでいる地いきが好きである。 | 69 B | 69 B | C | 主任を中心に、次年度に向けた準備が整いつつあるものの、学校として次期学習指導要領の実施に向けた全職員による研修が充分にできていない。 | 次期学習指導要領に関する研修会に参加した教職員が校内研修会の機会を利用して伝達したり、研究主任を中心として情報収集に努めたりする。また、校内研修を計画的に実施できるように早く準備し、町内小学校の動向にも目を向けながら実施に向けた教育内容の理解や改善について、引き続き進めていく。 |
| | | | ESD(ユネスコスクール)の推進 | ESDカレンダーを作成し、持続可能な社会の実現に向けて行動できる児童の育成に努める。 | 人権に焦点を当て、全教科・全領域を通して人権意識を醸成する。 | 人権尊重、生命尊重を意識した言動ができる。(児・保・教80%以上) | 自分も友達も家族も大切にすることができた。(人) | 97 A | 97 A | 児童は、自分や友達、家族のことを大切にしている。 | 94 A | 94 A | B | ESD(ユネスコスクール)の意義について教職員が理解を深めたり、児童が人権尊重・生命尊重・ものを大切にすることを大切にする等の意識が高まっている。 | ESD(ユネスコスクール)の意義や内容等に関連付けながら、人権教育の取り組みを進めていく。職員研修において、教職員間で共通理解を図る機会を取る。 |